8/25　１日目

ヒューストン経由約２０時間かけてようやくペルーの首都リマへ到着

オルランドの出迎えを受ける。

２３時着、翌日が早朝出発のためホテルへ直行、ウエルカムドリンク「ピスコサワー」を飲んですぐ就寝。

ペルー名物「ピスコサワー」結構強い酒です

8/26　２日目

トラベルエージェント（ＴＡ）が７時にピックアップ、再びリマ空港へ。

タラポトへ出発､リマ国際空港は待合室などふた昔前の日本のローカル空港の様子で、改札ゲートはごった返していた。

ＬＡＮ航空は思いのほか快適で１時間余りの飛行ながら軽食サービスがあった。

９時タラポト着、ホテルの迎えがありオルランド他３名でホテルへ。

タラポトは亜熱帯地域らしくとても暑いが日陰は涼しく典型的な大陸気候。

標高もリマの約 1000mに比べるとずっと低い。

ペルーのブラジル側国境に近くアマゾンジャングルも近いらしい。

ホテル「プエルトパルマネスリゾート」着。

ホテルのアクティビティツアを申し込んで、午後から出発。

ボートで川渡り、トレッキング、再びボートで湖を横断と、とてもエキサイティングながら地元の人にも触れ合える面白いツアだった。

ボートでの川渡りは､アマゾンの支流で 50mくらいの川幅を動力を使わず車とともに渡るもので、とてもスリリングなものだった。

日没は６時半くらい。

ＬＡＮ航空でタラポト空港に到着

リゾート気分満喫？

ホテルにて左からポンピリオ、御法、オルランド

川の流れを利用したフェリー？ボート

トレッキングでラグーナ（湖）をバックに

少しだけジャングル気分

8/27　３日目

いよいよ今日はブラウンコットンの畑へ案内してくれるようだ。

オルランドの当地スタッフであるポンピリオが迎えに来てくれて、カローラ 4ＷＤで出発。ホテルから約１時間半（150Ｋｍ）でオルランドが関わるオーガニックプロジェクトの村の一つ「SHANAO（シャナオ）」村に到着。

SHANAO は、御法さんが前回行った「SANMIGUEL」村の近隣地域にある。

人口４００人、うち農業従事者が 95%、そのうちオルランドの関わるオーガニックプロジェクト「SACHA GREEN」の参加者が１８世帯。周辺の村を合わせると SACHAGREEN の参加者は４０世帯くらいとのこと。

村はまるで「ドラゴンクエスト」に出てきそうな情景で、我々が到着するなり音楽隊（３人）と関係者多数が迎えてくれた。

シャナオの人が盛大な出迎え　　まるでドラクエの世界、シャナオの風景

農地は裏山の傾斜面にあり、写真でよく見る平地の綿花畑とは程遠い。山道を１５分程度登っていく途中もサチャインチ（地元のナッツ)、コーヒー、カカオ、パパイヤ、バナナなどの木がそこら中に立っており、栽培しているのだそうだ。
我々の見学した茶綿畑は、季節柄すでに収穫が終わっていたが、ちらほらと綿花が付いたままの木もまま見られた。0.75 ヘクタールが１つの単位で、綿花は１単位の畑で約２５０Ｋｇ収穫できる。(少ないという印象)
このあたりは高温で雨季乾季の差がはっきりしているという気候に適したワイルドコットン（アスペロ）しか育たず、茶綿もアスペロ種。
後にステファンが言っていたが、当地の茶綿を CANETEVALLEY へ植えてみたが、育たなかったそうだ。
この茶綿には虫が付かないそうで（理由は不明)、育てるには楽なようだ。もっともこんな傾斜地で重労働ができるとは思えないが。
「SACHAGREEN」の SACHA とは、現地ケチャ語で「FOREST」の意味らしく、「SACHAGREEN」とは「緑の森」ということか。

ブラウンコットン

綿畑見学後、山道をぐるっと回りながら他の畑も通ったが、とても人手の入った管理された「畑」と呼ぶには程遠く、山の斜面を切り開いてかろうじて何かを植えているという感覚だった。ひととおり畑見学の後、川のほとりで農家の人大勢が歓迎してくれる中、手料理の昼食を振舞ってくれた。
彼らの畑や生活は、山奥の鄙びた農村で細々と農業を営んでいる日本のそれと同じような感覚ではないかと思ったが、ここシャナオの SACHAGREEN プロジェクトに参加している人々は、プロジェクトに参加したことで自分たちの仕事の素晴らしさの動機付けと誇りを持っていると感じるとともに、地球の裏側からのビジネスパートナーにいかに大きな期待を寄せているかということが責任者の演説から読み取れた。同じことを日本の農業でもやればどうなるのだろうと思った。

畑の全景　木の背丈が高くて見渡せない、2m以上あろうか

綿花畑と言いつつ至るところにバナナやパパイヤが・・・これも管理された畑です

畑を下りてグリーンゲートを通って、歓迎の昼食会場へ

オーガニックプロジェクトの偉い人たち

綿の保管倉庫、村内の至るところにある

ステファンとオルランドの会社のマークと、Organic Exchange のマーク

綿花農場から戻り、ジン工場へ。
シーズンオフのため機械は稼動していなかった。ここはこの地方の綿花だけをジンニングしておりすべてアスペロ種だけ。茶綿に混じって収穫された白綿は原綿のまま国内で茶綿とトレードしタンギス白綿とブレンドしてカラードコットンを生産している。

ジン工場にて

原綿倉庫

8/28　４日目

朝ステファンと合流して、オルランドの社員グスタバの運転で、リマから約 300Ｋｍ南の Canate へジン工場と紡績の視察に向かう。途中の道路は右に太平洋を望み、左は見渡す限り荒野でまさに不毛の地といった感じではあるが、後にペルーの主産業は Mining（地下資源）と聞いてびっくりした。

見渡す限りの荒野

Canete 郊外の紡績工場へ。

このあたりの栽培綿花種はタンギス、少し西方へ行くとピマが採れる。

ステファンによると、オーガニックの綿実油はヨーロッパではバイオディーゼルとしてディーゼル車の燃料に使うとエンジン内のゴムを痛めないため、フォルクスワーゲン社が使っている。

オーガニック糸の紡績は control union の基準に沿って生産していると、マネジャーが言っていた。

タンギスは、繊維長が短いため紡績の歩留まり率が悪平均 75%程度。

紡績工場全景と工場マネージャーを囲んで

オルランドのオフィス前で

リマで宿泊した El Oliver Hotel

壷内卓、御法隆徳